

誠実に一生懸命!

直心

題字:長泉寺住職 後藤佑芳氏

県政だより

第41号(2012年8月)

静岡県議会議員

あつみ泰一



経済のグローバル化が一段と進む中で、ギリシャの財政破綻がユーロ圏に及び、さらに世界経済を揺るがしています。一方、我が国では、円高による国際競争力の低下やアジア諸国の台頭による企業の国外移転が、国内の働く場所も失わせています。国民の所得は下がる一方で、デフレスパイラルからの脱却が課題です。

このような状況の中で、私の重要テーマの一つは『海外との交流拡大と、地域産業の振興による静岡県経済の活性化』です。地域外交の推進と、中小企業の経営革新や新たな分野への挑戦に対する支援の一層の充実に取り組みます。いま一つは、『地域を担う人づくり』です。グローバル化に対応できる人材の養成に取り組んでまいります。 渥美 泰一

6月県議会 補正予算:総額1億7,400万円

①東日本大震災で発生したガレキ処分の受入れを進めます——1億5,600万円

(島田市に対する3,200t受入れ委託料。最終的には国から交付される)

島田市に続いて静岡・浜松・裾野・富士市なども廃棄物処理に取り組む意向であり、支援先である岩手県の要請に最大限応えて行くことが必要かと思えます。

②富士山静岡空港の新たな経営体制を検討します——1,800万円

現在の経営体制は、空港ビルを所有する県内有力企業の出資でつくる富士山静岡空港会社と、滑走路など空港基本施設を所有する県と別々。開港3年を経て、空港経営の見直しを進めるためには別々になっている経営を一体化し、民間による効率的な運営が必要ではないかと思えます。

企画文化観光委員会で県の姿勢を質しました。

『県庁組織改編』

渥美: 今、地方の自立が云われており、ましてや政府の現状を見ると、国に頼ってはいられないという思いを強くする。そうした中で今回組織改編が行われたが、どう評価しているか。

A: 県が自主的にグローバル化に対応した施策が実施し易い組織改編ができ、また県の総合計画を実施する上でも、県庁内の連携を強くすることができると思っています。

『知事戦略監』

渥美: 出野部長は知事戦略監という立場で、川勝知事の方針を受け止め、県の施策として実現して行く上で、どのような運営を考えているか。また「チーム川勝」として県行政の組織力、職員個々の力量が十分に発揮できているか。

A: 先ず知事の想いをしっかりと理解した上で、それをいかに実現するか、行政の事務方として、実現性やより効率的な手法や進め方などを知事にアドバイスもし、また、職員一人ひとりが持てる力を十分に発揮し、意欲的に仕事に取り組めるように配慮してまいります。

『地域外交(国際交流)』

渥美: 県の取り組みが重要性を増しており、県はこのほど「地域外交基本方針」を策定し、戦略的な取り組みを進めようとしていることを私は評価している。最も重要なことは、本県の魅力を高めることにあると思うが、どのような静岡県を目指すのか。

A: 「霊峰富士のごとく自立し、内外から憧れられる美しい地域」
「国際競争力を有する経済的に豊かな地域」
「多様な価値観を理解するグローバルな人材が育つ地域」
「誰もが理解しあい、快適に暮らせる多文化共生の地域」
を目指すとともに、静岡県を積極的にアピールしていきます。

渥美: 重点的な交流相手としている中国浙江省・韓国・モンゴル・台湾・東南アジア・米国の6つの国・地域に対する中長期的視点はどうか。

A: それぞれの相手先に対して、これまでの交流実績を踏まえ、防災、環境保護、経済、農業、広報、文化・音楽、観光、人材交流、医療衛生、青年・教育など多様な分野における、より具体的で緊密な交流をめざします。
・本県企業の事業展開や、農林水産物などの販路拡大など経済交流を進めます。
・訪日旅行などの観光交流の促進による、富士山静岡空港と相手先との航路拡大を進めます。

・県内市町の交流支援と、文化・スポーツ・青少年交流等の民間交流の促進を図るとともに、本県との架け橋となる人材の育成を図ります。

渥美: これだけの国や地域との間で、中長期計画に基づいて交流を実現していくためには推進体制が必要だが、どのように取り組むか。

A: 知事を会長に外部有識者と各部局長により組織する地域外交戦略会議を設置し、全庁的な共通認識に基づく総合的かつ効果的な施策を展開するとともに、地域外交を担う職員を育成します。
・対外情勢に精通した外部有識者からの助言・指導や、ネイティブ職員を活用して効果的に事業を推進していきます。
・海外駐在員事務所による現地政府や、各種機関との関係強化や事務所間の連携により、ネットワーク機能を強化します。

『観光振興への取り組み』

渥美: 本県の多彩で豊富な観光資源に研ぎをかけ、総花的ではなく、世界に誇れる観光ブランドに仕立てて、売り込むべきと思うがどう取り組むか。

A: 市町と連携して、世界から誘客できる観光地にすべく集中的に投資して行きます。
・例えば本県は、300年に及ぶ徳川の時代を築いた徳川家康公ゆかりの地であり、家康公を活用した観光ブランドを仕立て、これらをメディアや観光業者を介して重点的にPRする。

渥美: 富士山静岡空港を活かし、定期就航先や今後の訪日旅行が期待される地域への観光プロモーションを、積極的に行うべきではないか。

A: 定期便就航先等への訪日教育旅行の誘致や、企業訪問等を積極的に行うとともに、他空港とのジョイントによる観光商品の開発を進めます。 [他、富士山静岡空港・県立大学短期大学部看護学科の件について質問](#)



治山・砂防事業推進議員連
現地視察
(天龍区春野町堀之内)

北部山間地域には、まだまだ手を入れるべき所が多い。今後、内陸フロンティアを拓く上でも、中山間地域の振興は重要。

原発の再稼働について考える

福島第1原発の事故は、技術立国を誇る我が国にとって大変なショックであったと同時に、原発の安全神話が根底から覆されました。そして調査が進むにつれて、これまでの原発に関する情報の信頼性を一から検証する必要を感じます。

事故から1年余りが経過し、電力不足を解消するという観点から、原発の再稼働に向けて動き出しており、大飯原発は安全に対する国民の理解が、十分に得られないまま運転が再開されました。確かに、私たちの生活や産業にとって電力不足は避けなければならない、ということは理解できません。従って結論から申し上げますと、原発の再稼働は地震等に対する安全が、確認できたものについて最小限認める。そして目標年度を定めて、「脱原発」を実現すべきと私は思います。

浜岡原発を抱える本県としても、いずれ結論を出さなければなりません。原発について少し調査しましたので報告いたします。

【1】原発事故は起こり得る

今回の福島の事故も、マニュアルに従って適切な対応が取られていれば、大事故には至らなかった。誠に残念でなりません。しかし、人間がやることですので間違いは有り得るということも再確認しました。そして1986年のチェルノブイリと1979年のスリーマイル島の原発事故の原因も調べてみました。(竹田恒泰著「これが結論!日本人と原発」その他参照)

●過去最悪のチェルノブイリの事故

当時ソ連が誇る最新鋭の炉。定期点検のため24時間かけて出力を下げて炉を止める作業に入った。この停止に合わせて、ほんの数十秒で終わる実験が予定されていた。

出力を50%まで下げた時、電力需要があまりに大きかったので、暫く50%を維持した。夜になり再び出力を下げ始めたが、この時運転を継続した分を再セットするのを忘れたため、炉は急速に出力が下がってしまい、予定していた実験ができなくなりそうになった。このまま停止させれば何の問題もなかったが、運転員が再び出力上昇を試みた。やがて出力は上昇し始めたが、今度は暴走状態になり、慌てて緊急停止ボタンを押したが、緊急冷却装置も動かず、大爆発を起こしてしまった。

●スリーマイル島の事故

一歩間違えば米国東部は破壊していたこの事故も、発端は炉心に冷却水を戻す給水ポンプの停止。原因は炉心から離れた場所で起きた僅かな水漏れ。これを自動的にカバーするはずの補助給水ポンプが、直前の点検時に開け忘れ、これを知らせる計器ランプを操作員が見落とし、炉内は高温高圧となってしまう、制御棒が投入され原子炉は停止した。しかしそ

の後の炉心冷却のための装置の異常や操作ミスが続き水蒸気爆発に至った。原子炉建屋の崩壊は免れたものの、炉心の52%が溶け落ちた。原子炉は33年経った今も封鎖されたまま放置されている。

このようにチェルノブイリもスリーマイルも、多くの偶然が重なり重大事故に至っている。人間がやることだから想定外は起こり得る。そして原発は重大事故に至った時に、人の手に負えない厄介なものである。しかも、使用済みの核燃料や放射性廃棄物の安全な処分方法も確立されていない。

【2】原発の発電コストは安くない

kwh当たりの発電原価は原子力5.3円、LNG火力6.2円、石油火力10.7円、水力11.9円で原子力が安いということになっていた。しかし実は原子力コスト計算に含まれていないものがあつた。

【送電線】 人が住んでいない場所に設備するので莫大にかかる。

【国の交付金】 原発を誘致した地元をなだめる資金が莫大。

【電気の捨て場】 原発は出力の調整ができないので、夜間に余った電気で水をくみ上げておき、昼間その水を落として発電する。(揚水発電)この発電に要する電力は何と3倍。この費用も莫大。

【核の廃棄物処理費用】 使用済み燃料(高レベル放射性廃棄物)はガラスを固体化してステンレス容器に入れ、最短でも1万年以上、地下水から隔離した状態で保管する必要がある。(方法は未だ確立されていない。)この他にも膨大な低レベル放射性廃棄物を詰めたドラム缶。これらの処理に莫大な費用がかかる。これらの

費用がコスト計算に含まれていないと云う。

【3】原発に替わる発電はあるのか

今、国も自治体も代替エネルギー、すなわち太陽光、風力、小水力などの自然エネルギーに補助金を付けて普及しようとしている。もちろん将来に向けて、自然エネルギーの可能性を追求していくべきではある。

一方、今現在がそうであるように、火力発電がバックアップしていけば原発が動かなくても電力は足りそうだ。

今注目されているのは、ガスタービンコンバインドサイクルという天然ガスを使った高性能新型発電設備。通常の火力発電は、化石燃料でお湯を沸かして、その蒸気の勢いでタービンを回して発電し、排熱は捨てていた。コンバインドサイクルでは、天然ガスが1,300度という高温で燃焼し、直接タービンを回す。次にこの排ガスでお湯を沸かし、高圧蒸気タービンを回す。更にこの排ガスで中圧蒸気タービンに続いて低圧蒸気タービンを回す。つまり4段階でエネルギーを取る。その結果、従来のガスタービン発電と比べて、熱効率が1.5倍の60%に達成する。排熱は原発の1/2で済むという。

コストはどうか。原発100万kw級1基2,000億円の建設費と1,000億円の廃炉費用がかかるがコンバインドサイクルなら200億円程度。既存の火力発電を改造すれば、更に安く済む。建設工期も原発の20年程度に対し、2~3年で完成。

燃料の確保はどうか。近年、大規模なガス田が続けて発見されたことや、シェールガス資源の開発が進み、価格が急激に下がった。また今注目されているメタンハイドレードが実用化されると、200年分が日本領海内で確保できる。原発に替わる発電はガスコンバインドサイクルが有望のようです。



広島県の防犯カメラ設置状況を視察
繁華街に指定暴力団の組事務所もあり、街路に防犯カメラが設置され、常時監視している。



モンゴル国にある日本兵墓地を参拝
日本政府によって、ウランバートル郊外に立派な墓地が建設されており、現地のモンゴル人によって管理がされています。



天竜川河川敷で浜松市水防演習
大雨の季節を前に、水防団の真剣な訓練が繰り広げられた。御奉仕に頭が下がります。



静岡県青少年育成会議総会
県内各市町村の関係者が参加され、本年度の活動方針を決定。副会長として川勝知事に代わり挨拶。



静岡県議会議員 あつみ泰一事務所

〒434-0027 浜松市浜北区油一色132-1
TEL.053-585-1313
FAX.053-586-6155

私の県政活動をご覧いただけます県政へのご意見をお寄せください。
ホームページ ■ <http://www2.wbs.ne.jp/~atsumi-t/>
Eメール ■ atsumi-t@mail.wbs.ne.jp

「あつみ泰一携帯サイト」を開設しました。

携帯カメラでQRコードを撮っていただければ、あつみ泰一のサイトにアクセスできます。是非メール会員登録をお願いします。ホットな話題をお送りします。

